

中国・台湾留学生をモニターとして構想する孫文・宮崎滔天の絆（きずな）再生プロジェクトと着地型荒尾市創造的観光プログラムの提案

芸術工学府 環境・遺産デザインコース 馬 麗那

1、プロジェクトの概要

辛亥革命で封建清王朝は倒され、アジアで最初の民主共和制の中華民国が誕生した。そして、孫文は中国の建国の父として中国、台湾で尊敬されている。しかし、その偉大な革命に巨大な貢献をした宮崎滔天の存在は多くの中国人、日本人、台湾の方は知られていないのが現状である。その現状に対して、我々留学生3人はチームを組んで、荒尾市の観光と連携してこのプロジェクトを行うことになった。

本プロジェクトは、留学生観光モニタリングを実施しながら、孫文が敬愛しながら交流を深めた宮崎生家をクリエイティブクラスター（創造拠点）として、荒尾市を核とした日中学生交流まちづくり事業を通して孫文・宮崎滔天の絆（きずな）再生プロジェクトを推進する。および荒尾市では、宮崎兄弟に代表される日中友好を軸として国際交流、福岡や長崎からの地理的優位性を活かし、荒尾の魅力を再認識し、着地型創造的観光プログラムを創出することを目的とする。

2、プロジェクトの実施状況

① 荒尾市産業振興課観光推進室をはじめ荒尾市観光協会、宮崎兄弟生家、グリーンランド、漁協組合、梨観光園組合、中国領事館などの各方面から物心両面に渡る支援と協力を得ながら2012年9月28日（金）～30日（日）にかけ、九州大学での中国人留学生10人を参加した留学生モニターツアーを実施した。

民泊は今回ツアーの特徴である。民泊により留学生と日本人は交流が深めながら、お互い外国人と触れ合う機会を設けた。

参加した留学生にアンケート調査結果、インタビューの意見は、今後体験メニューの開発や相互理解を深めるための交流プログラムなどを設定する基準になる。数多くの新聞や放送局で注目し、報道された。それは日中隣国友好関係

の一つのツールを示していると思っている。

② 荒尾市は台湾の中学生や高校生の修学旅行先として使われたため、台湾で孫文と宮崎滔天の歴史協力関係と、滔天の生地である荒尾市の文化観光資源に関して、彰化女生中学校、宜寧中学校、台北市立建国高校、新民高校でプレゼンテーションを行った。

発表内容に対して、台湾の学生からは「その歴史協力関係を初めて聞きました。このようなプレゼンテーションはもっともっと聞きたいです。宮崎滔天の生家に見に行きたいです。お姉さんたちのように日本に留学したいです。荒尾市で民泊をしたいです。」などなど、積極的な反応を得ることができた。正直にいうとこうした反応は我々の予想以上だった。その反応に対しては私たち3人もすごく感動させられた。

3、今後の進展

① 昨年9月に行った留学生観光モニターツアーによる成果に事後の評価を加え、整理分析した内容を今年の3月にシンポジウム形式で広く荒尾市民に対して発表する機会を設ける。シンポジウム時における発表、質疑応答、討論や意見交換の記録をまとめて文字化し、報告書として提出・発表する。

② こうした一連のプロジェクトに参加した留学生は、以降も継続して荒尾市の観光大使をつとめながら、孫文・宮崎滔天の絆（きずな）再生プロジェクトメンバーとして日華友好の絆を構築すると同時に、中国・台湾からの観光客や訪問客を受け入れる観光プログラムの開発や提案を継続的に行っていく。

③ 荒尾市観光課は以下の三点を踏まえて、今回のプロジェクトは日中友好関係を広げるような一つのツールの可能性を示したことを確かめ、今後、このような往路ジェクとは荒尾市の事業として本格的に継続していくと予定された。

- * モニターツアーに参加した留学生や台湾の学生は、孫文と宮崎滔天の絆に対して興味深い反応があること。
- * 荒尾市民泊先の日本人の方から留学生に対する積極的な反応。
- * 様々なメディアの報道すること。

④ 我々も一つのプロジェクトは企画から実施するもで、様々な努力を出すことにより、自分自身の社会性、コミュニケーション能力、計画性、チームワークなどを知らず知らずのうちに成長させられた。